

# 第2期 年次報告書

2023年10月～2024年8月



労働者協同組合コモンウェーブ

## 労働者協同組合コモンウェーブについて

### MISSION

子どもも大人も誰もが一人の人間として尊重される地域共生社会の実現をめざします

### VISION

地域における福祉・教育・人権・文化・環境等、人々の暮らし全般の充実に貢献します  
自分らしく生き、仲間と共に豊かに働く環境を提供していきます

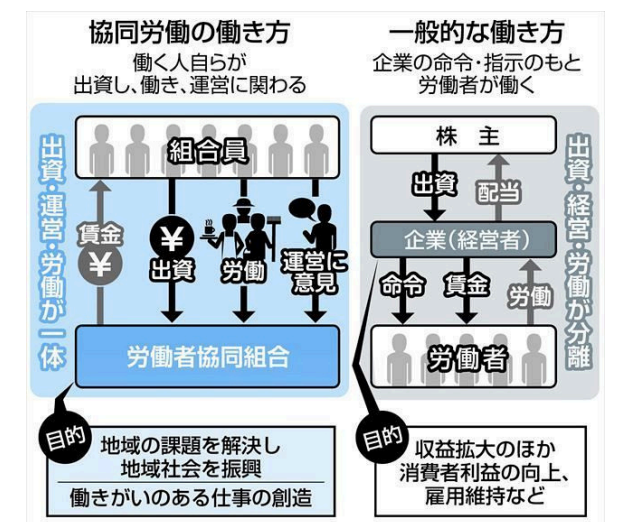
### VALUE

一人一人の意見を大切にし、話し合いによって事業を遂行します  
一人一人の個性を活かし、多様な就労の機会を創出します

### 沿革

- 2022.10 労働者協同組合コモンウェーブを設立
- 2023.1 放課後等デイサービス「サニーぶらす」を開設
- 2023.4 フリースクール「子どもの学び舎ワンダーYOU」を開設  
児童館事業、思春期世代の居場所事業、困窮ひとり親家庭への伴奏支援等を開始（令和4年度補正予算WAM助成）
- 2023.6 子ども地域食堂「ぼかぼかキッチン」開始  
日本労働者協同組合連合会正会員に
- 2023.9 ひとり親家庭へのフードパントリーを開始（ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業&むすびえ・こども食堂基金）
- 2023.10 第1回ぼかぼか子どもまつり（当時は児童館まつり）開催
- 2024.4 思春期世代の居場所事業「ティーンズカフェ」、子どもの自然体験活動「チャレンジキッズ」、ひとり親家庭へのフードパントリーを開始（令和5年度補正予算WAM助成）
- 2024.8 三重県労協活用地域連携協議会に参加
- 2024.9 三重県より特定労働者協同組合に認定

### 労働者協同組合とは



東京新聞より



代表理事 山浦 久美子

2023年、不登校児童生徒は34万人を超えました。学校に行けないということで「自分なんてダメな人間だ」「消えてしまいたい」と言う子どもたちを居場所に繋げることで支えていきたい——そんな思いで夢中で走ってきた2年でした。

不登校や発達に課題を抱える子どもたちや困窮などの厳しい家庭環境にある子どもたちにとって、この資本主義社会は生きづらいと感じています。生きづらさを抱える子どもたちが未来に希望をもって生きていくためにも、人々がお互いさまの気持ちで支え合えるようなやさしさに溢れた地域をつくっていききたい。そのための手段として、私は「労働者協同組合」という組織づくりを選択しました。

労働者協同組合とは、地域の困りごとを解決するために、自分たちで出資をして仕事をつくり、経営について皆で話し合いながら、共に心豊かに働いていこうとする組織です。それぞれの得意・特技を活かし、苦手をカバーし合うことで、自分らしく働いていく——。民主的な職場づくりを通して、子どもも大人も安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。

陰に日なたに支えてくださる多くの方々に心より感謝しております。



# 児童発達支援・放課後等デイサービス サニーぷらす

開所から1年10か月、試行錯誤しながら療育に取り組んできました。当初は一言も話さなかった子が自分の意見を言えるようになったり、勉強には見向きもしなかった子が自らプリントに取り組むようになったり、気持ちの切り替えに要する時間が短くなったりと、子どもたちそれぞれに大きな成長が見られ、職員の喜びにもなっています。



## 子ども主体の施設づくり

家庭や学校以外の「居場所」として、子どもたちが安心して楽しく過ごせる場所となるよう、子ども主体の施設づくりをめざし、子どもミーティングを月5~6回行っています。

施設ルール決めや長期休みのランチメニュー・調理当番決め、お出かけの行き先決めなども、話し合いによって子どもたちと決めています。日々の掃除当番も自分たちで決めてもらっているため、掃除の時間になると自発的に取り組む姿が見られています。

また、ソーシャルスキルトレーニングとして、自分の気持ちを伝え、相手の話を聞く訓練もしています。将来、話し合いによって物事を解決できる人になることをめざしています。



## 多様なプログラムを提供

ひとり親家庭の子どもが多いため、様々な経験を通して子どもたちの経験値を上げていきたいとの思いから、遠足等のイベントや科学実験等のワークショップ、田植え・稲刈り、火起こし、登山等の自然体験活動を多数企画しています。イベントであれば参加しやすいという不登校・ひきこもりの子どももおり、家から出るきっかけになっています。

また、該当月にはお誕生日会を開催し、職員からの寄せ書きを渡したり、保護者の方にご協力いただいて、ビデオメッセージやお手紙を渡したりしています。照れた様子を見せる子どももありますが、嬉しそうな表情を見せてくれるのが印象的です。





# フリースクール 子どもの学び舎ワンダーYOU



## のんびり学び、のんびり成長！

学校以外の多様な学びの場を必要とする小中学生を対象に、2023年4月11日に始めました。火曜日～金曜日の10：00～14：45に開設し、週2日ランチも提供しています。

学校には支援シートを提出することで、出席として認定していただいております。三重県からはフリースクールで学ぶ子どもたちへの支援事業補助金対象校として認定されています。

スタッフには元教員もおり、一人ひとりの習熟度に合わせた個別学習を行っています。また、ランチ作りや畑作業、テニス、釣り、子どもミーティングなど、学校の枠にとらわれないプログラムを提供しています。自由時間には、ボランティアスタッフも加わって大型トランポリンやドッジボールで遊んだり、大スクリーンでのゲームなどをして過ごしています。

利用者の中には四日市市から1時間以上かけて電車通学している小学生もおり、彼らにとって自分らしく過ごせる居場所の1つになっていると感じています。



## ----- \ 活動の課題と展望 / -----

### 多様な学びと居場所を提供し続ける

少子高齢化が進む一方で不登校の子ども数は年々増加しています。不登校になると子どもは「学校に行けない」「皆と同じようにできない」という負い目から自己肯定感が低くなりがちです。そのため、子どもたちにとって多様な学び方ができる場や、学校でも家庭でもない所で自分らしく過ごせる居場所の必要性が高まっています。

私たちは、まずは子どもたちに安心でき、自分らしくいられる居場所を提供することで、子どもたちの自己肯定感を上げていきたいと考えています。その上で当法人が行っている他の活動とも連携しながら多様なプログラムや個別に対応した学習を提供していくことで、子どもたちの社会的自立をサポートしていきます。

また、スタッフには学校や会社に行きづらいつと感じていた若者や元教員も在籍しているため、それぞれの経験をもとに子どもや保護者に親身に寄り添い、その子にとっての最善策と一緒に考え、進んでいきたいと考えています。

ワンダーに来るのを楽しみにしている子どもたちのためにも、継続的に運営していく体制づくりが課題です。





# 2023年4月～2024年3月 令和4年度（補正予算）独立行政法人 福祉医療機構（WAM）助成事業



## 中高生の居場所づくりと困難な親子の伴走支援

当法人が活動する三重県鈴鹿市は人口20万を抱えながら児童センターが市内に2か所しかなく、市内の約8割の子どもはアクセスすることができません。とりわけ中高生が無料で集える居場所は皆無に近いです。

そのため、特に困窮するひとり親家庭の中高生たちは経済的理由から放課後や長期休みに行く所がなく、異年齢・多人数で遊ぶ機会を得られず、経験値が低く、困ったときに頼れる人がいないという状況に陥りやすくなります。

今回の事業では、子どもたちの居場所づくりとして、誰でも利用できる私設児童館の運営や中高生向けの居場所事業を実施するとともに、困窮ひとり親家庭の伴走支援などを実施しました。不登校、困窮等の生きづらさを抱えた子どもやひとり親と繋がり、地域で支え合うことで、彼らの生きづらさが少しでも緩和されることをめざしました。

## ----- \ 活動トピック / ----- 子どもだけでなく大人にとっての居場所にも

事業を始めるにあたってボランティア募集を行ったところ、多数の応募があり、当事業のほかフリースクール、放デイ、その他の地域づくり事業を合わせ、11か月間で延べ859名の方にボランティアとして関わっていただきました。中には週に何度も定期的に参加してくれる方もおり、その方々にとっての居場所にもなっていると感じています。

ボランティアに参加した方々からは「ありのままの自分でいられるようになって楽になった」「役に立つことができ自信がついた」「自分が成長できる場所」といった声をいただいています。

また、フードパントリーに食品の受け取りに来た方が着られなくなった子ども服を寄付してくれたり、ボランティアとして関わってくれるなど、支援者一被支援者という“タテの関係”ではなく、お互いに助け合える“お互いさまの関係”を築くことができました。



## ----- \ 活動の課題と展望 / ----- より多くの子どもに利用してもらうために

活動している施設付近は目の前に海が広がり、自然豊かで静かな環境であるため、思いっきり遊ぶことができます。その一方で、高齢化地域であるためアクセスが悪く、街灯がないために夜は施設の周辺が真っ暗になることから、親の送迎がないと参加しにくいということもあり、これが児童館や無料学習塾の参加者数が当初の予想よりも下回った要因の1つになっていると考えています。

生きづらさを抱える子ども・若者の支援への支援は必要とされていることから、今後も支援は継続しつつ、送迎サービスを取り入れる等、より子どもたちが参加しやすい体制を考えていきます。



# 1

## 児童館「ぽかぽか広場」

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 小中高生に自由に過ごせる居場所を提供する</li> <li>② 集団で外遊びやボードゲームをしたり、一人で漫画を読んだり「自分らしくいい」という安心感を与える</li> <li>③ 異年齢での遊びを通して社会性を培う</li> <li>④ 困り事について子どもたちが気軽に相談できるようになる</li> </ul>
活動内容	ぽかぽか広場に5mの大型トランポリン・サッカーゴール・バスケットゴールを設置し、室内には1,500冊以上のマンガ本や多数のボードゲームを取り揃え、地域の子どもたちと発達に課題を持つ放課後等デイサービスの子どもたちが一緒に利用できるようにしました。
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年5月～2024年3月までで計52回開催</li> <li>・参加者：延べ446名（幼児19名・小学生237名・中学生165名・高校生25名）</li> <li>・ボランティア：延べ140名</li> <li>・鈴鹿市教育委員会後援</li> </ul>
活動成果	発達障がいの子と地域の子と一緒に活動する機会や異年齢での交流の機会を提供することができ、子どもたちが自分の好きなことをして思い思いに過ごす姿や、年上の子が年下の子を気遣う姿を見ることができました。また、ボランティアを通して若者たちに多様な価値観に触れる機会を提供することができました。



# 2

## 無料学習塾

目的	学びたいと思っている子どもたちに、家庭環境や経済的理由に左右されず、自由に学べる機会を提供する
活動内容	学習塾に通っていない小中学生や、テスト前に復習がしたいという中学生を主な対象とし、大学生や元教員がマンツーマンで英語や数学をメインに教えました。
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年5月～2024年3月までで計43回開催</li> <li>・参加者：延べ63名（小学生29名・中学生34名）</li> <li>・ボランティア：延べ22名</li> </ul>
活動成果	勉強に苦手意識や遅れがあった中学生に対して、継続的にマンツーマンで丁寧に指導することで解ける問題が増え、自信を持たせることができました。また、勉強する習慣がなかった小学生に対して勉強に集中できる環境を提供することができました。



# 3

## わくわく音楽塾

目的	家庭の経済環境に左右されることなく、小中高生が気軽に音楽に触れることのできる機会を提供する（ひとり親家庭は無料）
活動内容	エレキギターとドラム・アンプを用意し、手ぶらで気軽にレッスンができるようにしました。スタッフは音楽好きの大学生と社会人が担当しました。
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年5月～2024年3月までで計19回開催</li> <li>・参加者：延べ37名（小学生11名・中学生17名、高校生9名）</li> <li>・ボランティア：延べ20名</li> </ul>
活動成果	エレキギターとドラムを中心にレッスンを受け、回を追うごとに上達していく様子を見ることができました。全員がひとり親家庭のお子さんでレッスンを心待ちにしており、子どもたちに楽しく通える第三の居場所を提供することができました。



## 4

## eスポーツ倶楽部

目的	ひきこもりの状況にある不登校の子どもたちを居場所に繋げ、協力型ゲームを通してコミュニケーション力を高める
活動内容	ノートパソコンを取り揃え、手ぶらで気軽にeスポーツを楽しめるようにしました。チームで闘うヴァロラントに取り組み、指導はプロゲーマーのKNIGHTさんをお願いしました。
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年5月～2024年3月までで計21回開催</li> <li>・参加者：延べ82名（中学生37名、高校生1名、大人10名）</li> </ul>
活動成果	チームワークが必要なヴァロラントに取り組むことで、ひきこもりの状況にある不登校の中学生にリアルで繋がりたいというモチベーションを与えることができました。また、参加者の多くは不登校の中学生で、うち一人は昼夜逆転のひきこもり状態にありましたが、eスポーツを機にフリースクールに繋げることもできました。



## 5

## 不登校相談会

目的	不登校児童生徒を抱える保護者に不登校に関する悩みをシェアする機会と個別相談の機会を提供することで、保護者の不安軽減を図る
活動内容	座談会には不登校経験を持つ大学生、フリースクールのスタッフが同席し、スクールカウンセラーも務める公認心理師の石井浩氏がコメントする形で実施しました。
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月と11月に各1回、計2回開催</li> <li>・参加者：延べ13名（保護者5名、大学生3名、スタッフ3名、公認心理師2名）</li> <li>・鈴鹿市教育委員会後援</li> </ul>
活動成果	相談会に参加した保護者は、公認心理師の先生や当事者の話を聞いたことで不安が軽減したようで、安心した表情で帰って行く姿が見られました。また、相談会をきっかけに、フリースクールに通うようになったケースもありました。

## 6

## 児童館祭り&amp;かえっこバザール

目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の子どもたちに無料で遊べる機会を提供する</li> <li>② 子どもたちに店長体験やイベント運営の機会を提供する</li> <li>③ 地域の人々や団体との親睦を深める</li> <li>④ かえっこバザールを同時開催することにより、おもちゃのリユースや環境教育を促進する</li> </ol>
活動内容	本番前に事前準備会を開催し、垂れ幕作りや各ブースのポスター作り、スタンプラリー、かえっこバザール用の商品の値付けなどの準備作業を子どもたちと行いました。当日は受付・体験コーナー・レジ・オークションなど、多くの仕事を子どもたちが担いました。
活動実績	<p>[準備会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月～当日までに計5回開催</li> <li>・参加者：延べ25名（小学生6名、中学生3名、高校生12名、保護者4名）</li> </ul> <p>[児童館祭り当日]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10/9 13:30～16:00</li> <li>・参加者：115名（未就学児～高校生60名、保護者30名、ボランティア12名、協力団体スタッフ13名）</li> <li>・鈴鹿市教育委員会後援</li> </ul>
活動成果	スタッフ役の子どもたちに協働体験の機会を提供するとともに、地域の親子が体験イベントやかえっこバザールを通して楽しむ機会を提供することができました。また、食品や景品の提供やブースの出店等、様々な地元の人々・団体との協力体制を構築することができました。





## 困窮家庭の伴走支援

目的	困難な状況にある若者やひとり親家庭に食料を届け、家事支援を通して困りごとの解決を図る
活動内容	① 外国籍シングルマザーの第2子出産支援 ② 10代未婚の母の産後支援 ③ 高校生一人暮らしの伴走支援
活動実績	① 病院への送迎、食事作り、保育園への送迎など、延べ49回 ② 食事作りや相談相手など、延べ13回 ③ 食料配布、買い物の同行など、延べ11回
活動成果	① 「みんなに助けてもらってゆっくり休むことができた。食事も作ってもらえたので、長子の時よりも母乳の出が良く、赤ちゃんの発育もいい」と喜ばれました。 ② レトルト食品で日々の食事を済ませていたため、温かい食事を持って訪問すると喜ばれ、心配事を話してくれました。 ③ 月に一度の訪問でしたが、学校やアルバイト・進路のことなど何かあればLINEで相談に乗れる関係性を構築でき、家屋の処分では社協さんにご支援いただきました。



## どうぞの棚

目的	不要となり寄付された子ども服や学用品を展示する棚を設け、必要とする人が必要な物を自由に持っていけるようにする
活動内容	ぽかぽか広場に「どうぞの棚」を設置し、80cm～160cmまでの子ども服を男女別に整理して陳列することで必要とする人が自由に持って行くことができるようにしました。
活動実績	子ども服・おもちゃの寄贈者：40名、どうぞ棚利用者：25名
活動成果	フードパントリーを利用する方たちが使わなくなった子ども服や絵本・学用品を持参してくれており、支援する側とされる側との間に対等な関係性を構築するための貴重な手段となっています。

## ぽかぽかシネマ

目的	SDGsや社会問題に関する良質なドキュメンタリー映画の上映を通して、社会課題への人々の関心を高めていく
活動内容	cinemo（ユナイテッドピープル）と年間ライセンス契約を結び、環境、紛争、食等に関する様々なドキュメンタリー映画の上映会を月2回開催しました。上映会の後には感想を述べ合う時間も設けました。
活動実績	・2023年5月～2024年3月までで計20回開催 ・参加者：延べ97名 (未就学児3名、小学生7名、中学生12名、高校生5名、大人70名)
活動成果	映画を通して、様々な社会課題について知ることができました。また、上映後に感想や意見をシェアし合うことで、お互いの考えや感じ方の違いを知るきっかけとなりました。



## 事例報告会&事例検討会

目的	地域に関わる様々な団体や行政とともに事例報告・事例検討を行うことで地域内での協力関係を構築する
活動内容	・事例報告（NPO法人shining、労働者協同組合コモンウェーブ） ・複合的な課題を持ち合わせた世帯に関する事例紹介と支援の組み方についてのグループワーク
活動実績	・準備会：12月と2月に計2日開催（参加者；延べ13名） ・報告会：3/13 鈴鹿市社協にて開催（参加者；延べ36名）
活動成果	鈴鹿市社協のコーディネートにより、子ども・障がい・生活困窮に関わる鈴鹿市の職員や民間団体のスタッフが多数参加し、鈴鹿市のひとり親家庭の現状について情報共有することができました。 また、グループワークでは、民と官が同じテーブルの上で相談し合うことで、地域の様々な地域資源を発見したり、活用できる制度について情報共有をすることができ、大変有意義な時間となりました。





2024年4月～

# 令和5年度（補正予算）独立行政法人 福祉医療機構（WAM）助成事業



## 食事＆送迎付きの居場所提供とフードパントリー

令和4年度（補正予算）WAM 助成を実施したことで、家庭や学校以外の居場所の大切さを実感するとともに、必要な人に必要な支援・居場所を提供することの重要性を再認識しました。

そこで、課題として挙げられていた立地面の不便さを考慮し、ひとり親家庭を対象に送迎を実施したり、食事付きの居場所を提供するなど、利用者のニーズに合わせた事業を展開していけるよう内容を改善してきました。

また昨今の物価高により家計が苦しくなったひとり親家庭が増えていることから、ひとり親家庭を対象にフードパントリーも月1回実施しました。

----- \ 活動トピック / -----

## 様々な体験を通して成長する子どもたち

-----

事業を通して子どもたちに農作業やキャンプ・食事作り・音楽・ボードゲームなど様々なことに挑戦する機会を提供しています。そのような中で初めてのことに挑戦して成長していく姿を見たり、新たな一面を発見したりすることができます。

複雑な家庭環境や特性による日常生活面での困難さを抱える子どもも多く通っていますが、一緒に活動することで新しい友達や信頼できる大人ができたり、一緒に食事をする事で学校や家庭での出来事・悩みなどを共有できたりと、子どもたちにとって、かけがえのない居場所になっていると感じています。



----- \ 活動の課題と展望 / -----

## 事業を通して出会った人との繋がりを活かして

-----

2025年の3月までこの助成金事業を継続することで、より多くの子どもたちに安心して楽しく過ごせる居場所を提供するとともに、1人でも多くの困難な状況にあるひとり親家庭に寄り添うことができるように努めていきたいと考えています。

また、この事業を通してたくさんのシングルマザーの方や生きづらさを抱える子ども若者たちに出会ってきました。そのため、採択が決まっている別の助成金でキッチンカーを購入し、キッチンカーの出店を通して若者たちに起業体験や社会参加の機会を提供したり、副業の機会を提供することにより、ひとり親家庭の収入増を図っていきたいと考えています。



# 1

## ティーンズカフェ

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 主に中高生を対象とし、家庭環境や経済的理由に左右されることなく誰もが通えて、安心して過ごせる居場所を提供する</li> <li>② やりたいことをして自由に過ごせる居場所を通して「自分らしくいい」という安心感を与える</li> <li>③ 困り事について子どもたちが気軽に相談できるようになる</li> </ul>
活動内容	<p>学習支援・eスポーツ・音楽塾の講座を設けるとともに、漫画・ボードゲーム・外遊び等で自由に過ごせる環境を整えました。また、令和4年度補正予算事業で挙げられた課題点を考慮し、食事を提供すると共に、ひとり親家庭の希望者には送迎付きで開催しました。</p>
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年5月～8月までで計16回開催</li> <li>・参加者：延べ91名（小学生35名、中学生52名、高校生4名）</li> <li>・ボランティア：延べ15名</li> <li>・送迎：延べ53回実施</li> </ul>
活動成果	<p>ひとり親家庭からの参加者が多く、中には困窮でご飯を満腹に食べられない子や家庭内で孤食状態にある子もおり、食事の提供は子どもたちにとっても好評です。また不登校や学校への行きづらさを抱える中高生が多く参加しており、彼らにとって自分らしく過ごせる貴重な居場所の一つとなっていると感じています。</p>



# 2

## チャレンジキッズ

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 主に小学校高学年を対象とし、家庭環境や経済的理由により体験の機会が少ない子どもたちの経験値を上げる</li> <li>② 遊びや農作業・調理などの活動を通して、子どもたちが自ら学び自ら考える力を育む</li> <li>③ 異年齢での遊びを通して社会性を養う</li> </ul>
活動内容	<p>アートガーデンでの農作業や飯盒炊飯などの自然体験活動と、ぽかぽか広場でのボードゲームや外遊び・調理体験などができる環境を整え、様々な体験の機会を提供しました。また、食事付きで希望者には送迎も実施しました。</p>
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年6月～8月までで計7回開催</li> <li>・参加者：延べ29名（小学生23名、中学生6名）</li> <li>・ボランティア：延べ13名</li> <li>・送迎：延べ23回実施</li> </ul>
活動成果	<p>自然体験をしたり異年齢で遊んだりする機会が少ない子どもたちも多く参加していますが、様々な体験を提供することで、ここでできた友達と一緒に初めてのことに果敢に挑戦する姿や、成長していく姿を見ることができており、彼らにとって楽しく過ごせる居場所の一つになっていると感じています。</p>





### 3

## 子どもキャンプ

目的	キャンプを通して自然と触れ合うとともに、テントの設営、食事の準備等、仲間と協力して活動する機会を提供する
活動内容	チャレンジキッズとサニーぷらす合同で、亀山市の石水溪キャンプ場にて1泊2日のキャンプを開催しました。
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年8月12日～8月13日（1泊2日）</li> <li>・参加者：延べ21名（小学生16名、中学生4名、高校生1名）</li> <li>・ボランティア：延べ2名</li> <li>・送迎：延べ2回実施</li> </ul>
活動成果	キャンプは初めて、テントで寝るのも初めてという子が多く、不安そうな子もいましたが、友達と楽しく川遊びに興じたり、友達と協力して飯盒炊飯や調理・テントの設営や撤収をしたりする中で、たくさんの成長とたくさんの笑顔を見ることができました。



### 4

## ニーズを把握するための面談

目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ニーズを把握し、活動内容に反映させる</li> <li>② 悩みを相談できる関係性を構築する</li> </ol>
活動内容	ティーンズカフェ・チャレンジキッズ・フードパントリーに参加する子どもや保護者と話し、本人や家庭のニーズを聞くとともに、困りごとについて相談できる機会にしました。
活動成果	ニーズや困り感を把握することができ、活動内容や活動の際の声掛けなどに活かすことができたと感じています。中には発達に課題を抱えていたり、放デイを探しているご家庭があり、サニーぷらすの利用にも繋がりました。また、ひとり親家庭を対象とするフードパントリーではその後に開催している子ども地域食堂に繋げ、一緒に食事をしながら保護者の相談に乗ったり、食品を取りに来た際に話を聞いたりすることで悩みを相談できるようにしています。

### 5

## フードパントリー

目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ひとり親家庭や困窮家庭を対象としてフードパントリーを実施することで物価高の中でも栄養のある食事ができるようにする</li> <li>② ひとり親家庭同士が繋がり、情報交換をしたり悩みを共有したりできる場を提供する</li> <li>③ 地域内での協力関係を構築する</li> </ol>
活動内容	鈴鹿市子ども政策課を通して児童扶養手当受給世帯にチラシを配布して募集したところ、予想を上回る応募があり、月1回、約43世帯に配布しています。食材は地域の農家である生川農園さんに手配していただき、お米4～5キロと季節の野菜を配布しています。また、ご寄付いただいた食材や日用品がある場合は合わせて配布しています。
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年5月～8月までで計4回開催</li> <li>・延べ169世帯に配布</li> </ul>
活動成果	連絡がつかなくなるなどの理由でキャンセルになってしまうケースもありますが、空きが出ると、利用者からの紹介で新しい応募があったり、社会福祉協議会からの紹介による問い合わせもありました。昨今の物価高で米も野菜も高騰しているため、利用者の方からは大変喜ばれています。また、フードパントリーすずかのスタッフさんが毎月食品を寄贈しに来て、配布の手伝いもしてくださるなど、地域での協力関係もできてきました。





# その他の地域づくり事業

## 子ども家庭庁 ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業



フードバンク愛知からの米やレトルト食品約7,000円分に加え、要望の多い野菜や果物などを「むすびえ・こども食堂基金助成事業」の助成金を活用して月2,200円分購入し、主に多子や外国籍のひとり親家庭に配布しました。

2023年9月～2024年3月まで第1・第3土曜日に計14回、平均15世帯、延べ208世帯に配布し、受け取りに来られないご家庭には訪問して配布しました。

スクールソーシャルワーカーからの依頼を受け、地域の小学校2校にも配布し、困窮家庭に届けていただきました。

## ツリーデッキづくり

「子どもの冒険遊び場づくり大作戦」と題し、鈴鹿市まちづくり応援補助金（20万円）を得て、ぽかぽか広場にツリーデッキをつくるワークショップを開催しました。

打ち合わせ・地ならし・枝払い等の下準備を計2回、防腐剤の塗布・金具留め・支柱立て・床張り等の作業を計9回実施し、児童生徒は延べ69名、ボランティアスタッフは延べ9名が参加しました。

海が望める見晴らしのよいツリーデッキが完成し、子どもたちの新たな遊び場として活用しています。



## 子ども地域食堂 ぽかぽかキッチン



2023年5月から2024年3月までは月2回（第1・第3土曜日）、2024年4月からは月1回（第3土曜日）、ぽかぽか広場で16:30～19:00に開催しています。今期は2023年10月から2024年8月末までで17回開催し、利用者は延べ329名（幼児16名、小学生155名、中学115名、高校生13名、大人30名）、調理や子どもの遊び相手を担うボランティアは延べ113名が参加しました。

昨年度まで廃棄野菜をいただいていた八百屋が閉店してしまい、食材が手に入らなくなったため、食材は自前で購入するほか、ドミニクドゥーセさんからパン、エビスフーズさんからうどん、鈴鹿身土不二の会さんから米をいただく等、地域の方々による食品の寄付で賄っています。

フードパントリーで食品の受け取りに来た親子がそのままぽかぽかキッチンに参加していくケースも見られ、ひとり親家庭との関係性の構築にも役立っています。また、参加する人が準備や後片付けにも積極的に参加してくれており、和気あいあいとした雰囲気が醸し出されています。

親一人子一人というひとり親家庭も多く、子ども同士異年齢で遊んだり、みんなで食卓を囲むことで普段は食べない食材も食べられるようになったりと、ぽかぽかキッチンは核家族の子どもたちが社会性を学ぶ貴重な機会となっていると思われます。



## 第2期事業・組織運営概況

### ◆当事業年度経営成績

	前期 自 2022年10月20日 至 2023年9月30日	今期 自 2023年10月1日 至 2024年8月31日
売上高	16,479,805 円	35,587,713 円
営業利益	▲4,259,798 円	▲572,349 円
経常利益	▲112,956 円	805,439 円
当期純利益	▲178,856 円	596,739 円

### ◆職員の状況

2024年8月末時点



	男性	女性	常勤者	非常勤者
職員数	5名	9名	7名	7名

	20代	30代	40代	50代	60代	70代
	1名	4名	2名	6名	0名	1名

### ◆加盟組織

- ・日本労働者協同組合連合会
- ・三重県労協活用推進地域連携協議会
- ・三重協同労働推進ネットワーク
- ・鈴鹿市商工会議所
- ・鈴鹿市ボランティア連絡協議会
- ・みえ不登校支援ネットワーク
- ・鈴鹿子ども支援ネットワーク

### ◆施設の設置状況

施設の名称	施設の概要	所在地	
サニーぶらす	児童発達支援・ 放課後等デイサービス	鈴鹿市長太栄町 4-3-1	
ワンダーYOU ぽかぽか広場	フリースクール コミュニティスペース	鈴鹿市南若松町 476	

## メディア掲載



2023.9.7&9.14  
FM三重 ゲツモク番組内  
「子育てコープ」にて放送



2024.1.1 伊勢新聞



2024.8.30 中日新聞

## 子どもたちが明日に希望をもてる社会をつくる

コモンウェーブの活動は、ご寄付やボランティア等、みなさまからの様々な支援に支えられています。  
子どもたちが明日に希望を持てる社会を、誰かの困ったをお互いさまの気持ちで支え合える地域を、  
私たちと共につくっていきませんか？

### 寄付で応援

**ぽかぽかサポーター**（毎月1,000円～の定額の寄付で応援）

**法人サポーター**（毎月5,000円～の定額の寄付で応援）

【ぽかぽかサポーター特典】

特典①：ぽかサポ通信のお届け

特典②：年次報告書のお届け

特典③：総会&わくわくミーティングご招待

特典④：ぽかぽか広場のレンタル利用（利用料は別途必要）

特典⑤：法人様向け：ウェブサイトや資料に企業名とサイトURLの掲載

ご寄付はこちらから



### ボランティアで応援

フリースクールのランチ作り、チャレンジキッズやティーンズカフェでの子どもたちの遊び&話し相手、  
遊べる畑プレーパークの整備や遊びの指導員等を担ってくださるボランティアさんを募集しています。  
詳しくはお問い合わせください。

### 物品の寄付で応援

ひとり親家庭へのフードパントリーで配布させていただいたり、フリースクール「子どもの学び舎ワン  
ダーYOU」や子ども地域食堂「ぽかぽかキッチン」、中高生の居場所「ティーンズカフェ」で使用させて  
いただきます。

食料品：調味料、レトルト食品、カップ麺、お米、お菓子など賞味期限前で保存がきくもの

※野菜・お肉などの生鮮食品を寄付いただける場合は、事前にご連絡ください

生活消耗品：トイレトペーパー、ティッシュペーパー、キッチンペーパー、  
タオル、ごみ袋、ウェットティッシュなどで未使用のもの

※Amazon 寄付物品リストからのご購入も可能です。

Amazon寄付物品



**労働者協同組合コモンウェーブ**

〒514-0043 三重県鈴鹿市長太栄町4丁目3番1号

☎059-318-3758

✉info@commonwavejapan.com